報道関係各位　　MIHO MUSEUM　　平成 25 年 7 月

2013 年秋季特別展

# 朱漆「根来」 ―中世に咲いた華

**MIHO MUSEUM**（所在地：滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300、館長：辻惟雄）は、2013 年（平成 25 年）9 月 1 日(日)～12 月 15 日(日)までの期間、2013 年秋季特別展 **朱漆「根来」 ― 中世に咲いた華** を開催いたします。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

下塗の黒漆に、上塗の朱漆が施された神饌具や仏具、食器や酒器、茶道具や文房具などの朱漆器は、いつしか「根来」と総称されるようになりました。

名の由来となった紀州根来寺は、鎌倉から南北朝にかけて隆盛を極めましたが、秀吉の根来攻め（1585 年）で灰燼に帰してしまいます。戦火を逃れた工人たちは、各地に漆の技法を伝えたといわれています。

永年使い込まれ、上塗の朱漆をすり減らしながらも、下塗の黒漆が浮き上がり、美しい歳月を身にまとった器物は、茶人や数寄者に珍重されてきました。堅牢で実用的な造形、朱と黒の明快な色調、塗り肌の柔らかさや木地のぬくもりといった魅力を持つ「根来」は、日本古来の美を体現する工芸といっても過言ではないでしょう。

## 世界の黒澤が愛した日本の美

映画監督の黒澤明は、根来を愛蔵した蒐集家として知られています。作品「蜘蛛巣城」では、宴席の場面で使用する両口銚子、折敷、椀等を会津に発注し、室町時代の作を模して木地から下地、中塗、朱塗まで本格的に制作しました。また、この映画のクライマックスである、三船敏郎演じる武将に山田五十鈴演じる妻が主君殺しを迫る場面に、自らが所蔵する瓶子を、妻の内面に秘めた情念を象徴するかのように使っています。

本展は、監修に「根来」研究の第一人者・河田貞氏を迎え、日の丸盆とも呼ばれる「二月堂練行衆盤」（MIHO MUSEUM 蔵）や神前に神酒を饌えた「瓶子」（個人蔵）、用の美の典型ともいえる「入角折敷(いりずみおしき)・角切(すみきり)折敷」（真清田(ますみだ)神社蔵、重文）や、黒澤旧蔵の輪花盆（北村美術館蔵）など、「根来」の名品・優品を 400 点以上網羅し、展示総数、作品の質ともに、「根来」をテーマとした過去最大規模の展覧会となります（※ 会期中展示替えがあります）。

この機会に、茶道や禅の精神性にも通ずる「根来」の魅力を、どうぞお楽しみください。

**二月堂練行衆盤**（日の丸盆）
鎌倉時代／13 世紀
**MIHO MUSEUM** 蔵
（解説は P.3 No.1）

## 開 催 概 要

■ **展覧会名**　2013 年 秋季特別展
**朱漆「根来」　― 中世に咲いた華**

■ **英語タイトル**　" Efflorescence of Medieval Japanese Lacquerware "

■ **開催期間**　平成 25 年（2013 年）9 月 1 日(日)～12 月 15 日(日)

■ **会場**　**MIHO MUSEUM**
〒529-1814　滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300
TEL.0748-82-3411　FAX.0748-82-3414　URL. http://miho.jp

■ **主催**　**MIHO MUSEUM**／京都新聞社

■ **後援**　滋賀県／滋賀県教育委員会／NHK 大津放送局／BBC びわ湖放送
エフエム京都

■ **監修**　**河田 貞**（かわだ・さだむ）
奈良国立博物館名誉館員、元帝塚山大学教授

■ **担当学芸員**　桑原 康郎（くわばら・やすお）　**MIHO MUSEUM** 学芸員

■ **展示数**　総数 約 400 件　　※会期中展示替えあり
うち重要文化財 9 件（予定）

■ **展示構成**
Ⅰ．MIHO コレクションの「根来」
Ⅱ．祈りの造形
Ⅲ．華やぐ器
Ⅳ．茶道具と酒器
Ⅴ．朱のしつらえ―調度・文房具
Ⅵ．「根来」賛歌

■ **講演会**　11 月 4 日（月・祝）14：00～　**「根来の美」**
**河田 貞**　奈良国立博物館名誉館員、元帝塚山大学教授、本展監修者
南レクチャーホール／事前予約不要／入館料要／先着 100 名様
当日受付にて入場整理券配布

■ **開館時間**　午前 10 時～午後 5 時　【入館は午後 4 時まで】

■ **休館日**　月曜日【9/16、9/23、10/14、11/4 は開館し、9/17、9/24、10/15、11/5 は休館】

■ **入館料**　大人 1,000 円、高・大生 800 円、小・中生 300 円【20 名以上は各 200 円割引】

■ **次回予告**　2014 年春季特別展　3 月 15 日（土）～6 月 8 日（日）
**「江戸の異国万華鏡　―更紗・ガラス・陶器」**（仮称）

■ **「MIHO ＆ 陶芸の森・共通入館券」販売について**
**「信楽まちなか芸術祭」**（10/1～20 日）開催を記念して、本展と滋賀県立陶芸の森で開催される特別展**「酒器の玉手箱」**の共通入館券を販売いたします。
- この展覧会は、「人生を楽しむやきものシリーズ①」として、江戸時代後期から現代までのこだわりの酒器約 150 点を展示するものです。
- 料金：2 館でお得な **1,200 円**（※予定・通常 2 館合計 1,600 円）
- 利用期間：10/2 日（土）～12/15（日）の間、いつでも使えます。
- 入手方法：上記期間中 **MIHO MUSEUM** と陶芸の森のチケットカウンターで販売します。
- 滋賀県立陶芸の森　滋賀県甲賀市信楽町勅旨 2188 - 7
TEL.0748-83-0909　http://www.sccp.jp/

本展は、**「信楽まちなか芸術祭」**2013 年 10 月 1 日（火）～20 日（日）の連携事業として開催いたします。
**「信楽まちなか芸術祭」**については、別紙リリースをご参照ください。
お問い合わせは、信楽まちなか芸術祭実行委員会
TEL. 0748-70-3304　http://www.shigaraki-fes.com まで。

## 代 表 作 品

◆ 作品の画像データは、「**MIHO MUSEUM** 広報資料ダウンロードシステム」へアクセスの上、ダウンロードを行いご利用いただくか、**MIHO MUSEUM** 広報までご一報ください（連絡先後記）
（ご登録は、URL：https://www.secure-net.jp/miho/press/login/ よりお願いします。
既にご登録の場合は、ログイン ID・パスワードでログインの上、「登録内容」下の「ファイルダウンロード」枠内に必要事項を記入し、すぐ下の「ファイルの一覧」-「特別展秋」＞よりご利用ください。）

◆ 作品の展示期間について：7 月 20 日現在、全体の構成を企画している段階のため、展示期間はすべて未定です。悪しからずご了承のほどお願いいたします。

1. **二月堂練行衆盤**（にがつどうれんぎょうしゅうばん）**（日の丸盆）【**重要美術品**】**　［画像は P.1］
鎌倉時代／永仁 6 年（1298）　径 42.3 - 43.2cm　高 1.8cm　**MIHO MUSEUM** 蔵

毎年 3 月、奈良・東大寺二月堂では大松明で有名な修二会（しゅにえ・お水取り）が行われます。その行に籠る練行衆たちが、日に一度だけ二月堂直下の食堂（じきどう）で食事をとるときに使用したお盆がこの二月堂練行衆盤です。その色と形が日輪を連想させることから、俗に日の丸盆とも呼ばれています。
鎌倉時代から営々と使用されてきた古いものが、明治の廃仏毀釈などの混乱で市中に流れ、数点が民間にも伝わっています。現在、東大寺に 11 枚、個人や美術館などに確認できるもので 6 枚が知られており、数寄者垂涎の品であったようです。本展では、民間に伝わった 6 枚のうち 5 枚が出品されます。

【参考画像】
**稚児大師像、金銅六器、二月堂練行衆盤（日の丸盆）**
いずれも **MIHO MUSEUM** 蔵

**MIHO MUSEUM** の創立者である小山美秀子（1910－2003）は、50 年来茶道美術を蒐集してきました。小山は、写真のように仏教美術と取り合わせ、茶席のしつらえに使用して楽しんでいたようです。幼少の弘法大師の高貴なこころざしを感じさせる取り合わせです。

2. **輪花盆**（りんかぼん）
最大径 20.0　高 3.3cm　黒澤明旧蔵　北村美術館蔵

鎌倉時代、中国から禅宗と共に様々な器物がもたらされました。それらの中に含まれていた輪花形の陶磁器や漆器を写したものが、輪花形式の朱漆器と考えられています。唐物尊重の時代にありながら、日本の工人たちは、様々な輪花のバリエーションを産みだしました。
映画監督黒澤明氏が愛したこの輪花盆の中央に残った朱は、偶然なのか意図的なのか「根来」の中でも他に類を見ない天賦のすれ味を持っています。
私たちが「根来」と呼んで鑑賞する朱と黒のすれ味を、果たして中世の工人たちは予期していたのでしょうか。

3. **瓶子**（へいし）
径 27.0cm　高 32.5cm　個人蔵

瓶子は神に献酒するための神饌具と考えられ、通常は一対で神前に供えられました。現在では諸家に分蔵されている瓶子が、本来の一対の形で展示されるのも、本展覧会の見どころの一つです。
この瓶子は、残念ながら一口しか現存していませんが、その堂々たる姿と存在感は他を圧倒しています。注口からの外向きの曲線、底部からの内向きの曲線が明確に肩の部分で区分されるこの形式は、瓶子の中でも和様を示すものと考えられています。

4. **天目形椀**（てんもくがたわん）
室町（南北朝）時代／明徳 2 年（1391）銘：2 椀、径 11.5　高 7.1cm　江戸時代／天保 5 年（1834）銘：3 椀　径 11.3、高 7.2cm　高野山・持明院蔵
※写真手前左と奥左が明徳銘の椀　※全てに蓋が付属するが、写真手前 2 つは外している。

底部に年紀のある珍しい木製の天目椀で、今まで東京国立博物館所蔵の 1 点のみが知られていました。今回、高野山霊宝館様のご協力で新たに 2 椀が見出されました。
おもしろいことに、明徳 2 年（1391）の年紀が入るこの天目椀 2 客に、江戸時代の京都の漆匠、佐野長寛（1794－1856）が天保 5 年（1834）に 3 椀を補造して 5 客とし、さらに蓋をつくり菓子椀として伝来していたのです。
5 客の色がそろっていることから、長寛による古椀の塗り直しの可能性も考えられますが、天目茶碗として使用されていたものが江戸時代に転用されていた事実も伝えてくれる貴重な例といえます。

5. **盃**（はい）
径 12.2cm　白洲正子旧蔵　個人蔵

直線的な外観は、中世の「根来」から一皮むけた新しい感覚を感じさせますが、中を覗き込むと、その穏やかで深い「見込み」には古格が感じられます。そして、この盃のもう一つの魅力は、焼物の釉薬が溶けたような漆の塗り肌でしょう。漆刷毛の跡が残るような、粘りのある朱漆を塗ったままで仕上げた「根来」ならではの味となっています。
文筆家白洲正子さん愛蔵の盃で、古いものを現代の感覚で使いこなした白洲さんの美意識の一端が感じられる作品といえるでしょう。

6. **入角折敷**（いりずみおしき）、**角切折敷**（すみきりおしき）　【重要文化財】
室町時代／長禄元年（1457）銘　縦 35.8、横 35.9、高 2.2cm
愛知県・真清田（ますみだ）神社蔵

折敷（おしき）とは、食物を盛った器を置くための縁のついた盆のことです。元来は檜の片木（へぎ）でつくった盆を折敷と称したようで、平安時代後半から文献にその名が現れます。
現存する折敷は、社寺の什器としてしつらえられた例が多く、朱漆塗で四隅を方形、角切、入角、角丸などと呼ぶ形にデザインしています。
この二種の折敷は、数ある伝世品の中でも、洗練された優美な形姿に、伝統的な和風の趣を漂わせ、多年の使用に耐えたすれ味を持つ、用の美の典型といえる名品です。

入角折敷

入角折敷

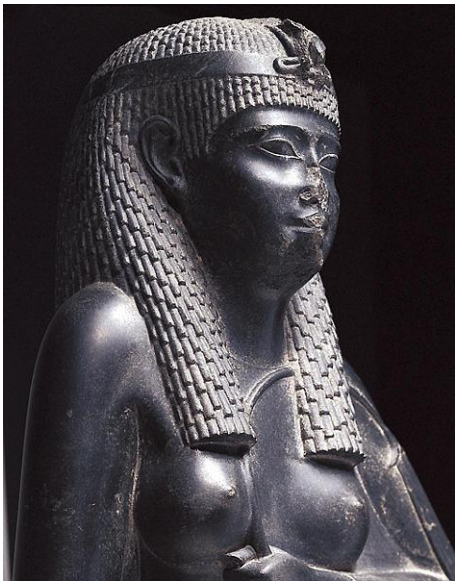
角切折敷

7.　**湯桶**（ゆとう）
最大径 30.5cm 高 35.7cm　個人蔵

湯桶は、元来金属製の点茶用具であったことが知られていますが、本品のような「根来」の遺品も多く見られます。
上面に窪みを作ることで、あふれた湯が側面に流れることを防ぎ、また、底部の腐食防止に足をつけるなど、実用性に考慮しながら、八角形を基本とし、すべての面を曲面で仕上げており、当時の工人の優れた造形感覚と技術を見ることができます。また、朱と黒の塗分けや胴体部に木目を生かすという美意識には、縄文時代から木と向き合ってきた日本人の感性が感じられます。加えて、永年の使用により八角の稜線が黒く浮き出て輪郭を引き締める効果は、「根来」ならではの魅力といえるでしょう。
この湯桶のように、機能や用途の上に、洗練された形の美しさ、最大限に引き出された木の美しさ、経年によるすれ味が、「根来」の魅力といえるでしょう。

# MIHO MUSEUM について

■ **MIHO MUSEUM** は 1997 年 11 月に、琵琶湖の南、自然豊かで風光明媚な湖南アルプスの山中に誕生しました。
建築設計は、フランス・ルーブル美術館のガラスのピラミッド、ワシントンのナショナルギャラリー東館、北京、香港の中国銀行ビル等で世界的に知られる I.M.Pei 氏によるものです。設計のテーマは「桃源郷」、東晋の詩人、陶 淵明の「桃花源記」にある仙境の楽園ー桃源郷の物語を、構想・設計・建設に 6 年の歳月をかけて、信楽の地に実現したのです。



■ 所蔵品は、エジプト、ギリシア・ローマ、西アジア、中央アジア、南アジア、中国、朝鮮、古代アメリカなどの古代美術と、仏教美術や、茶道美術をはじめ、絵画、漆工、陶磁器などの日本古美術をあわせて、約 2,000 点からなり、季節により内外からの出陳を加えて、常時 250～500 点を展示しています。
その質の高いコレクションは、ニューヨーク・メトロポリタン美術館、ロサンゼルス・カウンティ美術館、オーストリア・ウィーン美術史美術館、オランダ・ライデン国立古代博物館などで公開され、海外からも高く評価されています。

■ 美術館本館は「自然と建物と美術品」「伝統と現代」「東洋と西洋」の融合をテーマに、建築容積の 80%以上を地中に埋設し、建物の上にも自然を復元しています。幾何学模様が織りなすガラス屋根からは、明るい太陽の光が降り注ぎ、訪れる人をやさしく包み込んでくれます。

■ 施設としては、2 つのホール、オリジナルグッズをそろえた 3 つのショップ、無肥料・無農薬の厳選された食材を使用したレストランと、喫茶各 1 店舗があります。レストラン別室では、団体様用の昼食も提供しています。
**MIHO MUSEUM** は 30 万坪の敷地に、信楽の大自然、建築、美術品、すべてが融合した感動の空間です。

トンネルから望む美術館棟

**報道関係者の本件に関するお問い合わせ先**

**MIHO MUSEUM** 学芸部 広報担当 ：増田 正明、藤川憲行、西郡 哲也、南部 暁子
TEL. 0748-82-3411　FAX. 0748-82-3414
〒529-1814 滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300
ホームページ URL　http://miho.jp
広報東京デスク ： 今田 知博
TEL. 03-3487-9990　FAX. 03-3421-5575

広報担当デスク
㈱オズマピーアール
大　阪 TEL.06-6205-9800 FAX.06-6205-9801　担当：木村、福村
〒541-0042 大阪市中央区今橋 2-4-10　大広今橋ビル 8 階
東　京 TEL.03-4531-0225 FAX：03-3265-5058　担当：荻布（おぎの）、湯浅
〒102-8025 東京都千代田区紀尾井町 3-23

**＊＊＊＊＊一般の方のお問い合わせ先＊＊＊＊**

**MIHO MUSEUM** （ミホ・ミュージアム）
〒529-1814　滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300
TEL.0748-82-3411　FAX.0748-82-3414
URL. http://miho.jp